

提出
順番

No.
7

平成30年11月27日
午前・午後 3時58分受領

平成30年11月27日

幕別町議会議長 芳 滝 仁 様

幕別町議会議員

岡本

眞利子



一般質問通告書

次のとおり通告します。

質問事項	質問の要旨
1 選挙管理委員会の取組について	<p>2016年に18歳選挙権が導入され、同年7月に行われた参院選は、10代の若者が国政選挙で初めて投票するとあって大きな注目を集めました。「若者の政治離れ」などと言われ、どれほどの18、19歳が選挙に関心を持ち投票に行くのか、専門家や教育関係者から不安の声が聴かれる中、投票率は18歳が51.17%、19歳が39.66%と、20歳代の投票率と比較すると高い水準になりました。</p> <p>本町としても今年度、議会と選挙管理委員会が高校2、3年生を対象とした講座を開催し、若年層への主権者教育の取組を始めたところでもあります。</p> <p>若者の投票率が低いのは、政治離れ、無関心が理由であると考えていました。しかし、それだけではなく、投票したいのにできない方がたくさんいるということにも気付かされました。高齢者や認知症の方が増え、身体や精神、知的障がいなど障がいをもつ方も今後は増加傾向にあります。そのような現状の中、高齢者や障がい者、全ての有権者が投票しやすい環境をつくることが重要であると考えます。</p> <p>そこで、以下の点について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 投票率の現状と課題は。(2) 投票率向上に向けた取組は。(3) 郵便等による不在者投票や代理記載制度について。<ol style="list-style-type: none">① 申請から証明書交付までの日数は。② 郵便等による不在者投票のできる対象者数と郵便

<p>2 小児がん（網膜芽細胞腫）の早期発見について</p>	<p>等投票証明書を交付した件数は。</p> <p>③ 障がい者が投票しやすいような支援策は。</p> <p>(4) 投票所における代理投票の利用状況は。</p> <p>我が国では、小児の病気による死亡原因の第1位はがんとなっています。小児がんの患者と家族は発育や教育への対応など、成人のがん患者とは異なる課題を抱えています。</p> <p>小児がんの中には網膜芽細胞腫という眼のがんがあります。発症は出生児1.5万～1.6万人に1人と少ないのですが、このがんは95%が5歳までに診断されております。網膜芽細胞腫は「白色瞳孔」や「斜視」の症状が現れることがあり、素人でも病状に気づきやすいため、その多くは家族が異常に気づき診断に至っています。早期発見が可能とされる小児がんであることから、以下について伺います。</p> <p>(1) 網膜芽細胞腫の早期発見に対する町の取組は。</p> <p>(2) 乳幼児健診の間診票の「眼」の項目に「白色瞳孔」を追加する考えは。</p>
--------------------------------	--

(注) 質問の要旨は、具体的に記載すること。